

# connect

[コネクト]

第15号

令和8年1月

お伝えします。

医療の“いま”、病院の“いま”を



## 2026年に向けて



公益社団法人昭和会 理事長 今給黎 和幸

いまきいれ総合病院 院長 濱崎 秀一

診療支援部門、患者支援部門、医療安全管理部門、看護部門、事務部門、法人事務局

## 【特集】麻酔科 / マダガスカルで国際医療協力に参加

●【TOPICS】黎和塾2025 ～ムーンショット～

●【NEWS】地域社会に貢献

つながる医療 つながる生命



公益社団法人昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL

いまきいれ総合病院



# いまきいれ総合病院



理事長  
今給黎 和幸

2026年の幕開けにあたり、当法人の日々の医療・福祉を支えてくださる患者さん、ご家族の皆さま、地域の皆さま、そして連携医療機関の皆さまへ、心より御礼申し上げます。昨年は物価上昇や賃上げを含む社会環境の変化により、全国の病院の約7割が赤字という厳しい状況に置かれました。当院でも産科休診、レディース病棟の閉鎖という大きな転機があり、病床稼働の低下が懸念されましたが、職員一人ひとりが使命感をもって業務改善に取り組み、複数の月で計画値を超える収益を達成することができました。この成果は、患者さんの安全と安心を守りながら、より良い医療の提供を目指して努力を続けた全職員の力によるものであり、ここに深い敬意と感謝を表します。

当法人では、医療の質向上を目的に「院内発表会」を毎年開催していますが、現場からの改善提案が着実に育ってきています。2025年はスローガンに「3I(イノベーション・インテリジェンス・インクルージョン)」を掲げ、既成概念にとらわれず新しい仕組みや働き方を創り出すことを目標としました。その成果として、診療の質向上、患者サービスの改善、業務効率の向上など、地域の皆さまに還元できる多くの取り組みを実行することが出来ました。これは職員だけでなく、日頃よりご意見やご支援をお寄せくださる患者さん・地域の皆さま、連携医療機関の皆さまのおかげでもあります。

2026年は、昨年築いた「仕組み」からもう一步進み、それを支える「人」の力に重点を置く一年とします。新スローガンは「3C(ケア・チャレンジ・コラボレーション)」。

ケアは患者さんと地域を思いやる心、チャレンジは困難に向き合い未来を切り開く姿勢、コラボレーションは職種を超えた協働だけでなく、地域医療機関との連携強化を意味します。少子高齢化と人材不足が進む中、医療の質を保ち続けるためには、人を大切に互いに支え合う組織文化が欠かせません。

これからも当法人は、理念である「協力・貢献・向上・教育」を基盤に、地域に必要とされる医療を守り育ててまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



# 2026年に向けて



## 院長 濱崎 秀一



新年あけましておめでとうございます。

2025年は職員定着率の改善と生産性向上・効率化という重要課題に取り組んでまいりました。

職員定着率の改善では、各部署が積極的に離職防止に取り組みました。特筆すべきは、看護部の負担軽減策として、リハビリ課スタッフを中心とした院内副業制度の開始です。タスクシェアリングの一環として、リハビリ課スタッフの90%近くが参加し、月平均8回程度の時間外副業に貢献してくれました。院内多職種間の横のつながりを軸にした互助制度のひとつの方向性を示すものと考えます。離職対策としては、ワークライフバランスを考慮した労働環境の改善、キャリアアップ・スキルアップ支援、柔軟な勤務体制の導入、医療DXの活用による業務負担軽減、賃金や手当の引き上げ、メンタルサポート体制などが挙げられます。

生産性向上・効率化では、薬剤部の調製監査システム、AI電話、AI画像診断システムの導入、全部署の業務効率化のためのRPA(Robotic Process Automation)活用など、様々なシステムを進行中です。業務負担軽減につながるため積極的に進めていきたいところですが、費用負担、人材確保、セキュリティ対策といった課題も解決していく必要があります。

産科休診と婦人科縮小に伴い8月からレディース病棟22床が休床となり321床での運営となりましたが、病床利用率は90%近い高稼働状態が続いており、職員一丸となった協力体制には頭が下がる思いです。ただし救急患者の不応需率が20%を超える月も発生しており、退院・転院の円滑化を進めるとともに、救急患者受け入れシステムの見直しも検討する必要があります。

2026年の診療報酬改定では、物価・賃金の上昇、生産年齢人口と全体人口が減少する中で、医療従事者の人材確保は重要課題であると国も認識しており、本体改定率が+3.09%と大幅アップが決まりました。その内訳は医療従事者の賃上げ対応と物価高対応にあてられる予定です。病院の赤字解消には直結しませんが、離職防止に役立つことを期待しています。

新たな地域医療構想では病院の機能報告制度が導入され、急性期拠点病院機能の集約化が進みます。当院は急性期拠点病院として活路を見出したいと思います。2026年も皆様のお力添えをお願いいたします。





## 診療支援部門

■部門長 立和田 得志(診療部長)

■副部門長 兒島 邦幸(リハビリテーション課 療法士長)

薬剤課、中央臨床検査課、  
臨床工学課、中央放射線課、  
リハビリテーション課、栄養管理課、  
病理課、診療補助課、  
診療アシスタント課



思いやりと  
協働を大切に、  
人を活かして  
未来をともに育てる



思いやりを形に、  
挑戦と協働で  
現場を支える  
事務部門

## 事務部門

■部門長 御供田 貴之(事務長)

■副部門長 末吉 保則(事務次長)

人事総務経理課、医事課、診療情報管理課



思いやりと協働で  
つなぐその先の安心へ!  
入退院支援センター

## 患者支援部門

■部門長 今給黎 尚幸(副理事長)

■副部門長 原口 一博  
(入退院支援センター長)

入退院支援センター



力強い現場と  
頼れる本部

## 昭和会事務局

■法人事務局 堀 雅之(事務局長)

■法人事務部 末吉 保則(事務次長)

経営企画課、用度課、医療情報管理課、  
人事総務経理課



相互尊重  
コミュニケーションで  
共感の土壌をつくり  
信頼の輪を広げ  
専門性とアイデアの  
掛け算に挑戦する!

## 医療安全管理部門

■部門長 岩川 純(副院長)

■副部門長 千田 清美  
(医療安全管理課課長)

医療安全管理課、感染管理課、褥瘡管理課

## 看護部門

■部門長 近藤 ひとみ  
(看護部長)

■副部門長 藤山みどり  
河原直美  
上山真紀  
有菌さつき  
尾堂知子  
山下真理恵



患者に安心を  
職員に働きやすさを  
お互いにささえる  
看護部



# 黎和塾2025 ～ムーンショット～

2026年度スローガン

人を活かし未来をつなぐ

3C  
 Care (思いやり)  
 Challenge (挑戦)  
 Collaboration (協働)

経営方針(戦略)の共有、また公益社団法人の今後のベクトルを合わせるため、管理職を中心としたトップからの発信を目的とした「黎和塾」。今年は12月15日に開催いたしました。

今給黎和幸理事長より、労働集約型である病院経営において、改めて「人こそが資本であり、職員あつての病院である」という原点に立ち返り、職員とともに次の新たな事業計画にチャレンジしていく決意として、人を活かし未来をつなぐための次年度スローガン「3C」が発表されました。



## NEWS

## 地域社会に貢献

公益社団法人昭和会の理念のひとつは「地域貢献」です。地域に根ざしたまちづくりの一環として、防災訓練、健康教室を開催いたしました。

### 合同防災イベント

開催日／2025年11月23日(日・祝)

荒田校区コミュニティ協議会とヒューマンライフ協議会(公益社団法人昭和会、医療法人玉昌会、南国ホテルズ株式会社)は、住民の災害への備え、防災意識の向上を図るため、初の合同防災訓練を11月23日に行いました。

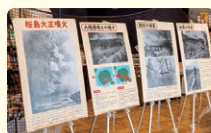
当日はキラメキテラス街区合同防災訓練も行われ、荒田校区の方々もトリアージ訓練に参加しました。

防災訓練の他に、鹿児島市危機管理課による桜島大正噴火のパネル展示や新聞紙でつくる防災スリッパの紹介、鹿児島市消防局中央消防署による消火器使用訓練、消防車展示が行われました。そのほか炊き出し訓練、災害時におけるドローンを使用した支援活動デモ、ドクターカー展示など多彩な防災展示・体験コーナーが設置されました。鹿児島大学共通教育センター准教授 井村隆介氏による防災講話も行われ、大人から子供まで多くの方々が興味を持って参加されました。

地域の皆さんがこの訓練に参加し、防災に関する知識を深め、災害時の備えについて意識を高めていただいた1日となりました。



**開会式**  
 開会式では、ヒューマンライフライン協議会(昭和会理事長)今給黎会長、荒田校区コミュニティ協議会 まちづくり部会 黒岩会長が挨拶を行いました。



鹿児島市危機管理課による防災グッズ作成・桜島大正噴火パネル展示  
 パネル展示のほか、防災スリッパ作成を行いました。鹿児島市危機管理課職員による防災グッズ作成・桜島大正噴火パネル展示。



キラメキテラス地区合同防災訓練・トリアージ訓練  
 いまきいれ総合病院正面玄関前で、医師、看護師によるトリアージが行われました。



鹿児島市消防局中央消防署の協力による消火器訓練・消防車展示



ドクターカー見学・AED体験・災害時におけるドローンを使用した支援活動デモ



炊き出し訓練



防災講話/開会式

鹿児島県専門防災アドバイザー・鹿児島大学共通教育センター准教授 井村 隆介氏による講話『桜島大噴火に備えて「もし、桜島がいま…」』、医療法人玉昌会 高田理事長、荒田校区コミュニティ協議会 鼓島会長の挨拶をもちまして、防災イベントは閉会となりました。



# 特集 麻酔科

麻酔科は、手術を受ける患者さんの全身管理を担う診療科です。手術麻酔を担当する当該科は整形外科、泌尿器科、外科、頭頸部・耳鼻咽喉科、呼吸器外科、形成外科、歯科口腔外科、脳神経外科です。麻酔科医の業務は、手術中の管理だけでなく、手術前の診察・評価から始まり、手術後も患者さんの状態を良好に保つために継続的な観察・管理を行います。



## 当科の紹介

麻酔科常勤医師は7名(麻酔科専門医6名、歯科麻酔科医1名)と他に日替わりで大学やその他の施設から応援医師とで、協力して診療にあたっています。手術室は8室あり、年間3000件以上の手術に対する麻酔業務を担うほか、放射線治療室などでも麻酔管理を行っています。過去3年の手術室の手術件数、麻酔科が管理する麻酔管理症例数、そのうちの全身麻酔件数を表に示しています。麻酔管理症例数、全身麻酔症例件数ともに年々増加傾向にあります。すべての手術室で、コンピューターによって情報管理された全身麻酔生体モニターや最新の麻酔器を配備しており、体温も測定しながら患者さんが安全に手術を受けられるように努めています。



	2022年度	2023年度	2024年度
手術症例件数	3370	3529	3881
全身麻酔件数	2731	2837	3238
麻酔管理件数	2851	2928	3305



# 麻酔について

麻酔法としては、全身麻酔に加え、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、それに各種神経ブロックも取り入れており、術後の痛みを最小限に抑え、快適にしてくれるように努めています。術後も早期に、より術前に近い状態に戻れるように、鎮痛薬、制吐薬、循環作動薬などを調整、使用しています。最近の麻酔薬は鎮痛薬のレミフェンタニルのように代謝が早く、鎮静薬のレミマゾラムや筋弛緩薬のロクロニウムのように拮抗薬がある薬が登場し、以前よりも麻酔の導入や覚醒が早く麻酔の調整がしやすくなっている印象を受けます。



## 麻酔術前診察について

定期手術に対する術前麻酔科外来は水曜日を除く月曜日から金曜日に実施しており、手術麻酔に関する説明や術前評価を麻酔科医が行っています。また緊急・準緊急手術の患者さんに対する麻酔の説明は直接救急外来や病棟で行っています。超高齢で本人との意思疎通が難しい時などは直接家族に電話し、麻酔の説明・同意をいただいています。これらの術前評価には麻酔担当専属クラークの協力も得て行っています。近年は手術を受けられる患者さんの高齢化が進み、それに伴い臓器機能の低下や糖尿病などの併存疾患を有する方が増えているため術前麻酔科外来の役割はますます重要となっています。状況によっては、循環器内科、代謝内科、呼吸器内科など内科系の先生方とも連携して麻酔計画を立て、麻酔を行っています。

### 地域の医療機関の

### みなさまへ

手術を受ける患者さんが最適な麻酔を受けられるよう配慮していますが、麻酔に関して少しでも疑問があれば、遠慮なく担当麻酔科医にお尋ねください。

#### 部長 下野 裕生

- 日本麻酔科学会麻酔科専門医、指導医
- 麻酔科標榜医
- 博士(医学)鹿児島大学

#### 副理事長/部長 今給黎 南香

- 日本麻酔科学会麻酔科専門医、指導医
- 心臓血管麻酔科学会専門医
- 日本周術期経食道心エコー(JB-POT)認定
- 麻酔科標榜医
- 博士(医学) 鹿児島大学

#### 顧問 山下 順正

- 日本麻酔科学会麻酔科専門医
- 日本救急医学会救急科専門医
- 麻酔科標榜医

#### 科長 肥後 友紀

- 日本麻酔科学会麻酔科専門医・指導医
- 臨床研修指導医要請講習修了医

#### 医長 二宮 裕

- 日本専門医機構認定麻酔科専門医
- 麻酔科標榜医

#### 医長 千堂 良造(歯科医師)

- 日本歯科麻酔学会認定医
- 日本口腔顔面痛学会 口腔顔面痛認定医
- 一般財団法人日本いたみ財団 いたみ専門医
- 歯科医師臨床研修指導歯科医

#### 医師 押川 初音

# マダガスカルで 国際医療協力に参加

一般社団法人日本マダガスカル口唇口蓋裂医療協会(代表理事:土佐泰祥医師)では、マダガスカル共和国などの発展途上国において口唇口蓋裂の子どもたちに国際医療援助することを目的に活動しています(X @mclcp2025 より引用)。この活動に、当院 麻酔科 医長 二宮裕医師が、マダガスカル・アンチラベ市のアベマリア病院で実施された口唇口蓋裂の治療活動に麻酔科医として参加しました。

今回、二宮医師に現地での活動内容や印象に残った出来事について話を伺いました。



麻酔科 医長  
二宮 裕 医師

- 主催 ..... 一般社団法人日本マダガスカル口唇口蓋裂医療協会
- 活動内容 .... マダガスカルにおける口唇口蓋裂治療
- 場所 ..... マダガスカル アンチラベ市 アベマリア病院
- 渡航期間 .... 2025年9月11日～9月20日
- 活動日数 ..... 4日間 手術:5才～28才 計8例
- 参加者 ..... 形成外科医3名、麻酔科医2名、言語聴覚士1名、看護師2名、事務2名、ボランティア1名

## 参加のきっかけ

今回、マダガスカルでの手術ボランティアに参加されたきっかけを教えてください

初期研修後、1年間形成外科医として働いていました。昨年、そのときの先輩から「アフリカ行かない?」とLINEをもらったのがきっかけです。

「行ってみよう」と決断する上で背中を押したものは何でしたか?

困っている患者さんを助けられる、すごくいい機会だと思いました。麻酔科医には、時にひとりでもうにかしなければなら



出発前の資材運搬

らない場面もあるので、不安な面も大きかったです。逆に「必要とされているのなら貢献したい」とも思いました。声をかけてもらって行かない

理由はない、という気持ちでした。もちろん、部長の下野先生・今給黎先生をはじめ、麻酔科の先生方が快く許可してくださったことも大きかったです。また、海外で医療を行うには通常、留学や資格取得などが必要になるので、こうした形で関わるチャンスは非常に珍しいと思います。そういう意味でも、自分の成長につながる良い経験になるのでは、と考えて参加を決めました。



ドバイでの乗り継ぎの様子

## 現地での活動

現地ではどのようなお仕事を担当されましたか?

基本的には麻酔を担当していました。ただ、人手が足りないので、時には看護師さんのお手伝いをしたり、医療機器に不具合が出たときにはマニュアルを読みながら、いわゆ





休養日に丘からみたアフリカの土地

るCE(臨床工学技士)のようなこともしました。  
また、事務の方々がスクラブなどの洗濯をしてくださっていたのですが、その手伝いをするもありましたし、本当にいろいろなことをやりました。

### 麻酔科医として、日本とマダガスカルで 大きく異なった点は何でしょうか？

大きな違いでいうと、日本では当然のように「準備された環境で麻酔を行う」ことができますが、今回のような活動では、まず“麻酔ができる環境をつくる”ところから始まります。手術室の環境づくりや物品・薬の在庫管理も、すべて自分たちで担わなければなりません。その経験を通して、日本では多くのスタッフに支えられて医療が成り立っていることを、改めて実感しました。すべてを限られた人数で行うのは本当に大変でした。

また、現地には形成外科と麻酔科の先生が1人ずついらっしゃってその2人にも、たくさんのサポートをしていただきました。

やはり言語が通じないということは、医療行為においてとても大変で、手術室にきて不安で泣いている子どもや、麻酔からの覚醒時に興奮状態にある患者さんを落ち着かせるための声掛け、手術後の指示を現地看護師に伝えてもらう、患者家族への説明、回診時の通訳など、様々なサポート



アベマリア病院(修道院に併設されたクリニック)



診察の様子



のおかげで、今回の活動を安全に終えることができたと思っています。

### 医療機器や物品などで 不足を感じることはありましたか？

麻酔機が少し古く、点検も業者とzoomをつなぎながら、指示をもらいつつ、自分で行う必要があり、普段することがないので大変でした。また、使用できない薬品などもありましたが、必要な物資のほとんどは日本から運んでいたもので、そこまで不便さを感じることはありませんでした。むしろ、限られたものの中で、いかに工夫して、日本と同等の医療の質を担保できるかというふうに考えることがいい経験になったと感じています。



手術の様子

### 特に印象に残った手術や場面があれば 教えてください

ひとつは、28歳の女性の患者さんです。日本では口唇裂の手術はおおむね2歳くらいまでに行われるので、28歳での手術というのは考えられないことですが、そもそも現地では、手術を受けられないケースも珍しくありません。

その女性は、これまでの人生を「外見で分かる状態」のまま過ごしてこられたわけ

で、想像を絶する苦労があったと思います。マダガスカルでは、外見に現れる疾患は強い差別や偏見の対象になることもあるそうで、そうした背景を考えると、今回、家族が手術を受けさせようと連れてきてくれたこと



ミッションに誘っていただいた形成外科の先輩医師(右)

にも感謝しなければと思います。手術が無事に終わり、術後の回診で彼女も彼女の家族も笑顔に向けてくれた時に、本当にこの活動に参加してよかったと感じました。

もうひとつ心に残っているのは、200キロ以上離れた地域から、何日もかけて子どもを連れて来てくださった家族のことです。残念ながら、その子が到着後に発熱してしまい、手術を実施できませんでした。ご家族にとっては「この機会にかけていた」はずなのに、安全を優先するため断らざるを得なかったことは、とても心苦しかったです。

日本なら「来月に延期しましょう」とできる場面ですが、その子には、次の機会がいつになるか分からない。そうした現実の厳しさを痛感しましたし、手術をしてあげられなかったことが本当に辛かったです。

## 現地での出会い・感じたこと

実際に患者さんやご家族と接して  
どのようなことを感じられましたか？  
また、医療を受けた患者さんたちや  
家族の表情にどんな変化がありましたか？

最初、患者さんたちは僕らをすごく不思議そうな目で見ていました。異国から来た、肌の色も違う人たちですし、日本にいると感じることはありませんが、依然として、世界には、差別が残っています。そんな中で「手術を受けてみよう」と思って来られた方々は、信じたいけど大丈夫だろうか、言葉も通じないし不安……という表情をしていました。

でも、手術が終わって翌日の回診に行くと、表情ががらっと変わりました。本当に「ありがとう」という思いがあふれていて、形成外科の先生に対しては特に感謝の言葉を何度も伝えていました。マダガスカル語なので内容までは分かりませんが、にこやかな表情と雰囲気から十分に伝わってきました。

僕自身は麻酔科医なので患者さんの前面に立つことはあ



診察の様子



まりありませんが、そうした場面に立ち会えて、本当に貴重な経験をさせてもらったと感じました。

### 現地のスタッフとの協力や交流で 心に残っていることはありますか

2つあります。ひとつは、インド人のシスターとの出来事です。最終日の食事のときに「少し話したい」と声をかけてくださり、英語で話をしてくださいました。「遠い日本から来て、マダガスカルでこうした活動をしてくれることは本当に素晴らしいこと。神様はきっとあなたたちを見ている。あなたたちは“like an angel”、マダガスカルに幸せを運んでくれた天使のようだ」と、とても感動的な言葉をいただきました。

もうひとつは、現地の若い看護師との交流です。私たちのボランティアは年に一度しかありませんが、その短い期間のために、手術の器械出しを積極的に引き受けてくれました。機械の名前を日本語で覚え、メモをとりながら一生懸命学んで、こちらの日本語での指示にすぐに対応できるように努力していたんです。教育を受ける機会が限られている環境にもかかわらず、「少しでも学べることがあるなら吸収したい」という強い向上心を持って取り組む姿勢に、心から感銘を受けました。逆に自分たちは現状に満足してしまっていないか、もっと学ばなければと考えさせられました。



ミッション終了後手術室片付けが終わり、参加メンバー集合写真

です。日本にいと当たり前ことは、一歩外に出れば、当たり前ではないことを体験したことは、自身の価値観を大きく変えるきっかけになりました。

今回の体験を活かしていくとすれば、「向上心」と「感謝」を忘れないことです。現地のスタッフの姿勢に現れているように、限られた環境の中でも学ぼうとする姿勢は本当に尊いものですし、自分もその気持ちを持たなくてはいけないと思いました。

また、日常の診療は医療関係者だけでなく、様々な業種の方のおかげで、成立していること、表には見えないサポートのおかげで、医療が行えていることに改めて、感謝を忘れずに過ごしたいと思います。

## 今後への思い

### また行きたいと思いますか？

「どこへでも行きたい!」というわけではありませんが、自分が必要とされていて、力になれる場があるのであれば、またお手伝いをしたいと思います。ただ、実際に行ってみるとかなりハードです。マダガスカルまで23時間、水道をひねれば茶色い水が出てきたり、ホテルの部屋にも虫が普通にいたり、手術室にはハエが飛んでいたり…。食べ物でもちょっと油断するとすぐにお腹を壊してしまいます。なので、誰にでも「ぜひ行ったほうがいい」とは簡単には言えません。でも、現地に入ったからこそ見えるもの、感じられるものが確かにあります。マダガスカルの広大な大地で、真っ青な空と赤い土を目の前にすると、自分がいかに小さな存在かを思い知らされます。しかし、それと同時に、ちっぽけな存在だとしても、目の前で治してほしい患者さんがいる時に、その目の前の一人を助けられることの価値を強く実感しました。改めて、麻酔科医としての道を選んだことは間違いではなかったと確認できたように思います。

### 最後に、今回の活動を支えてくれた

### ご家族や職場の仲間に向けて、一言お願いします

まず何よりも、このような活動に行かせてもらえたことに感謝しています。職場の理解や支えがなければ実現できませんでしたし、家族も快く送り出してくれたことに本当に感謝しています。

そして、せっかく行かせてもらった以上、この経験を自分の中だけに留めず、若い先生方にも伝えていきたいと思っています。鹿児島でこうした経験をしている人は多くないので、少しでも学びや気づきを共有できれば嬉しいです。

## 学び・気づき

### 今回の活動を通して学んだことは何でしょうか？

### また、この経験を今後の診療や日常業務に どのように活かしたいと思いますか？

学びとしては、日本での医療はとても恵まれた環境の上に成り立っていて、それは当たり前のことではないということ



「救急」「がん」「周産期」を柱として、  
急性期医療で地域を支えます。



麻酔科



公益社団法人昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL  
**いまきいれ総合病院**

〒890-0051 鹿児島市高麗町43番25号  
TEL: 099-252-1090 FAX: 099-203-9119  
<https://imakiire.jp/>



当日入院の  
ご依頼(緊急)

**医療機関専用緊急ダイヤル** 救急患者のご紹介(24時間対応)

TEL: 099-203-9115

医療連携全般の  
お問い合わせ

**地域医療連携室**

TEL: 099-203-9110 FAX: 099-203-9101 月～金曜日 8:30～17:00

翌日以降の  
診療予約

**外来予約センター** 診療予約・予約変更

TEL: 050-1726-8618(AI電話)

TEL: 099-203-9100(医療機関予約専用) FAX: 099-203-9101 月～金曜日 9:00～17:00

画像検査の  
ご予約

**画像予約センター**

TEL: 099-203-9102 FAX: 099-203-9144 月～金曜日 9:00～12:30 / 13:30～17:00

昭和会理念

協力

貢献

向上

教育



関連施設 **上町いまきいれ病院**

〒892-0854 鹿児島市長田町5番24号  
TEL: 099-222-1800 FAX: 099-226-3366  
<https://kanmachi.imakiire.jp/>



いまきいれ子ども発達支援センター

関連施設 **まある**

〒890-0054 鹿児島市荒田1丁目15-3  
TEL: 099-202-0325 FAX: 099-202-0326

いまきいれ総合病院の  
公式SNSもチェック!

